

2010 年度卒業式

## 贈る言葉

公立大学法人山梨県立大学長

伊藤 洋

今日、ここに小沼省二山梨県副知事をはじめ山梨県内各界のご来賓のみなさまにご列席を賜り、山梨県立大学・国際政策学部卒業生 89 名、人間福祉学部卒業生 90 名、看護学部卒業生 103 名、さらに看護学研究科修士課程修了生 5 名のみなさんに、学位を授与できることを心からうれしく思います。また、これらのみなさんを、今日まで支援してこられたご家族・ご親族の皆さん、また本学常勤の教職員は言うまでも無く、非常勤講師として、あるいは教育 GP に関わって協働事業に参加された多くの関係者、学外実習・インターンシップ・街づくりなどの現場でご指導を賜った数え切れないほど多くの県民のみなさんに心からお礼を申し上げたいと存じます。

ところで、去る 11 日、わが国は東北地方太平洋沖地震という未曾有の災厄に見舞われました。まことに残念なことに本学学生の中にも、家屋が破壊したり家族を失ったりした学生が数名おります。その中には、今日この会場にいるはずだった学生 2 名も含まれております。これらの諸君とそのご家族の皆さん、加えて被災されたすべての人々に、開式に先立って心からのお見舞いと、亡くなられた皆さんには哀悼のまことを捧げたいと存じます。

さて、本学では今日までの過去三年間、文部科学省所管事業である「質の高い大学教育推進プログラム」、いわゆる「教育 GP」からの資金を受けて<学際統合型専門職連携教育開発プロジェクト>を推進してまいりました。今日の卒業生のうち看護学部・人間福祉学部の学生諸君はこのプログラムのもとでさまざまな実践的学習や体験を経験して参りました。この学習成果は皆さんが現場に立たれたときに自信と勇気を鼓舞してくれるはずのものです。

本学は今年度<課題対応型サービスラーニングによる公立大学新教育モデル>が新たに「教育 GP」として指定を受け、国際政策学部を中心にプロジェクトを昨秋 10 月よ

り開始したところであります。ここに、サービスマーケティングとは、大学における座学と、地域現場でのフィールド活動を組み合わせた教授・学習・省察せいさつのための方法論のことであります。つまり、「地域を活動拠点として行われる実践的な活動を、それだけに留まらず座学や省察と結びつけることによって、学習経験を豊かにすると同時に、市民としての責任を学習し、生涯にわたる地域社会への貢献思考を育み、地域の結びつきを強化するもの」と定義されているものです。これは着手したばかりで今日の卒業生にそのまま適用されてはいませんが、みなさんはすでに先験的にさまざまな地域貢献活動を行って来ました。

そのすべてを紹介する時間はありませんが、ほんの一例として「山梨エコユースフォーラム」の環境啓発活動は、その活動の理論と実践が高く評価され、昨年末に行われた第8回全国大学生環境活動コンテスト（略してエココン2010）では、並みいる参加51大学中の最優秀グランプリに輝き、環境大臣賞を授与されました。これなどは本学学生たちの地域貢献活動のほんの一例にすぎません。

この他にも、日本語教育、地域活性化、多言語放送、国際観光などの多様な活動において、カリキュラムと連動した独自の実践的学習の場を取り入れて来ました。それにより、地域社会と大学との密接な関係を築き、地域から高い評価を得るとともに、学生の実践力の向上に大きく寄与することが実証されております。

これらの例は、学生諸君にとっては、いずれも社会や地域住民に対して奉仕する利他的な活動を通じて、最終的に学習成果として自己の利益につながる仕組みとなっているものであって、サービスマーケティングのフィールドワーク部分に確実に相当する活動でありました。

私が、この話から始めたのには意図が有ります。20世紀から21世紀への変り目頃から日本社会にはなにやら冷たい隙間風が、どこからともなく吹き込んでくるようになりました。他方この時期は実に23四半期間という過去に例のない長期にわたる好景気の期間でもありました。企業は、この間に2.1倍の内部留保を貯めこんできたにもかかわらず、その果実は株主や経営層には配分されたものの、企業にとって最も有力なステークホルダーであるべき社員には分配されなかったばかりか、リストラに励み、その結果、中高年層を中心に職を失う人が急増するという結果にすらなりました。かくて「いざなぎ景気」をしのぐといわれた長期の好況が終わるや、この国は350万人の失業者を常時抱える羽目に陥ってしまいました。しかも、これらの人々の背中に向かって「自己責任」という厳しい言葉がはきつけられるという冷たささえもあったのです。

こういう世情は当然に生きずらさを招きます。自殺者3万人という不幸な事態がこの間継続し、いまだにその出口は見えていません。また、子供を産むことに逡巡する人々の増加は、全国規模での合計特殊出生率がたったの1.37という低率にとどまったままです。この結果、人口は激減し、健康保険や年金・医療などあらゆる部面で社会問題を惹起しています。こういう世相を表現して「無縁社会」とか「孤族」とか様々に呼称されています。

こういう日本社会に流れる隙間風を防止するには、人々が利他的な行動に踏み出すことが是非とも必要です。この国には、昔から「稼ぎが有って半人前、務めを果たして半人前、両方やれてやっと一人前」という言葉があります。「稼ぎ」とは自分の口を糊する活計のことです。つまり、おまんまが食えるということは当たり前であってそれだけでは人間としては半人前、それに加えて更に、「務めを果たす」つまり「利他的」な行為・他者のために何かを実行できるようになってようやく一人前の人間たりうるのだという意味です。

これについてすぐに思いつく鎌倉時代初期につくられた説話文学『宇治拾遺物語』の中にとっても面白い話がありますので、それをみなさんに紹介しておきましょう。『宇治拾遺物語』第96話「長谷寺参籠の男、利生りしょうに預かる事」です。この説話は小学校の教科書や絵本で紹介されていますので皆さんには馴染みの話です。その書き出しはこうです。

「今は昔、父母・主もなく、妻も子もなく、ただ一人ある青侍ありけり。すべき方もなかりければ、「観音助け給へ」とて、長谷に参りて、御前にうつぶし伏して申しけるやう、『この世にかくてあるべきは、やがて、この御前にて干死ひしにしなん。もしまた、おのづからなる便りもあるべくは、そのよしの夢を見ざらんかぎりは出づまじ』とて、うつぶし伏したりけるを、寺の僧見て、『こは、いかなる者の、かくては候ふぞ。物食ふ所も見えず、かくうつ伏したれば、寺のため、穢らひ出で来て、大事になりなん。誰を師にはしたるぞ。いづくにてか物は食ふ』など問ひければ、『かく便りなき者は、師もいかで侍らん。物食ぶる所もなく、あはれと申す人もなければ、仏の賜はん物を食べて、仏を師と頼み奉りて候ふなり』と答へれば、寺の僧ども集まりて、『このこと、いと不便ふびんの事なり。寺のために、あしかりなん。観音をかこち申す人にこそあんなれ。これ、集まりて養ひて候はせん』とて、かはるがはる物を食はせければ、持て来る物を食いつつ、御前を立ち去らず候ひけるほどに、三七日になりけり」

この書き出しは実に滑稽というか現代的というか、これが鎌倉初期のものとも思えませんね。つまりかいつまんで訳せば、主人公の「青侍」、青侍とは一般的に身分の低い

侍のことですが、平安時代なら公家に仕える六位の侍のことです。しかし、ここの文脈から見ると要するに親兄弟も妻子もないフーテンの若者、現代風に言えばニートと言ってよいでしょう。それが長谷寺にやってきて、観音さまの御前に座り込んでしまった。しかも希死念慮もあるらしく、食事を摂っている風も無いので早晚餓死するだろう。ここで死なれては困るので、寺の坊さんたちが、この男に「お前の先生は誰か？」とか「どこで飯を食うか？」とか一生懸命尋ねます。すると、「自分には先生もいないし、食べる所とて無いし、また自分が死んだからとて困る人もいない、ただただ自分は仏様を師と仰ぎ、仏様が呉れるものを食べるだけだ」と答えたというのです。すると寺の僧たちは「これは困ったことだ、悪くすると観音様の信用にもかかわる、みんなで食事を与えてやらないとやばいぞ」ということになって、みんなで食事を上げることにしました。こうなると居心地が良くなってしまって、この男、いつになっても立ち去らなくてついに三×七=21 日の間観音堂に住み着いてしまった、というのがこの説話の書き出しです。

こうして21 日間ごろごろしていた夜明けのこと、彼の夢枕にお告げがありました。

「ここからすぐに立ち去れ。ここを出て何でもいいから手につかんだ物があったらそれをしっかり掴んで持っておれ」と。そこで彼は寺を出ます。すると、さっそく「大門にけつまづきて」倒れました。起き上がって見れば手に一本の「わらすべ（原文ではわらすべと書いてあります）」を握っておりました。「いとはかなく思へども、仏の計らはせ給ふやうあらんと思ひて」、つまりなんだか頼りないけれど、仏様のはからいでこれを持っているというのだから、と「わらすべ」を掴んだまま歩いていきます。すると、アブが一匹飛んできました。あまりにうるさいのでこれを捕まえてこの「わらすべ」に縛り付けますと、これがぶんぶん飛び回って、とても面白いし、目につきますね。

そこへ女<sup>おんなぐるま</sup>車といえますから、今でいえばロールスロイスかジャガーです、これに乗った稚児、つまり御曹司・お坊ちゃんですね、これが「あの男の持ちたる物は何ぞ。かれ乞ひてわれに賜べ」というので仕方なくこれを渡します。するとお礼にと言ってみちのく紙に包んだ大柑子（おおうじ）、ミカンですね、これをこの子の母親がくれました。

貰ったみかんを持ってまた歩いていくと、いかにも身分の高そうな女人が大勢の侍を具して歩いてくるのに出っくわします。この女性はすっかり疲労困憊していて、「喉の乾けば、水飲ませよ」、喉が渴いてたまらないので水を頂戴というのですが迎りに水が有りません。そこで「水の所は遠くて、汲みて参らば、<sup>ほどへ</sup>程経候ひなん。これはいかが」とさっきもらったミカン三つを全部上げてしまいました。すると、この女主人はすっか

り元気になりました。一行は大いに喜んで、この男に「布三匹」をお礼に呉れました。三匹とは、1匹が幅34cmの長さがほゞ10mですから、その3倍30mの長尺の反物です。

あくる日、この貰った布を背負ってまた歩いていくと「えもいはずよき馬に乗りたる人」とすれ違います。ところがどうしたとか、この馬が突然彼の目の前で倒れ、そのまま死んでしまいました。死んでしまっただけではどうしようもありません、一行は下男を一人残して立ち去って行きました。件の青侍が下男にこの馬のことを聞くと陸奥から買ってきた名馬で大層高価な馬だがこうなってしまうたら皮を剥いで売る以外には何の値打もない、というのです。しからば、この三匹の布と交換して、この死んだ馬をくれというと、下男は馬の革よりこちらの方が高価なので喜んで死んだ馬をくれました。

男が長谷寺の方角に向かって「この馬生けて給はらん」と手を合わせますと、何と馬が生き返ってしまいました。つまり馬は観音様のご利益で蘇生したのです。

こうして、この名馬をひいて宇治の町まで来ますと、そこに長旅に出なければならないので大層馬を欲しがっているという男に出くわしました。この男は、すぐにこの馬に目を付けて、試乗させろと言います。男は、この馬に乗ってみますともうすっかり気に入ってしまいました。この男、自分には鳥羽（現在の京都市南区の鳥羽ですね）に田んぼと家があるからこれをしばらくお前に預ける。「おのれ、もし命ありて帰り上りたらば、その時返へし得させ給へ。上らざらんかぎりは、かくてお給へ。子も侍らねば、とかく申す人もよも侍らじ（自分が生きて帰ってきたらこれらの田んぼを返してくれ、帰ってこない間は使っていてくれ。子供もいないから文句を言う人もいないのだ）」と言って何処かへ行ってしまいました。

男は預かった田んぼを全部は耕せないで、この家の使用人たちのために耕作させて、自分は自分ひとりが耕作できるだけの田畑を耕していましたところ、これが毎年豊作。すっかりお金持ちになりました。

そうして毎年毎年田畑を耕している間に「その家のあるじも、音せずなりければ、その家もわが物にして、子・孫など出で来て、ことのほかに栄へたりけるとか」と、宇治拾遺物語第96話は大団円を迎えます。

実はこの話、「わらしべ長者」という童話に翻案されておりますので、皆さんは小学校の教科書や絵本で読んだことがあるでしょう。この、藁しべ一本から大金持ちになった成功譚の鍵は、主人公の「利他的行為」です。道ずれとなった他人の困難に、彼が素直に応えていくだけで幸福は自然に手に入り、しかも登場人物の全てが良い方向に向かいました。

この度の東北地方太平洋沖地震では、惨害が伝えられるや、世界中から暖かい救援の手が差し伸べられています。また、多くのボランティアが支援に入っています。本学の学生たちも現地に入って活動しています。みなさんも一年前から計画してきた今宵の祝賀パーティを自粛する決定を致しました。さぞや断腸の想いだらうと、その決断に特段の敬意を表します。こういう優しさや無償の「利他的行為」は被災者はもちろん、伝え聞いたすべての人々にとって心温まるものです。伝えられるところによれば、中国のメディアは「これだけの災害を受けながら日本では略奪や救援物資の奪い合いなどが全く無い。日本人の血の中にはモラルというDNAが入っているらしい」と報道したと外電が伝えています。大変誇らしい話です。

皆さんは、今日から社会人です。社会人として、それぞれの職場で「天職（ベローフ）」としてそれぞれの職場で口を糊していかれることでしょう。しかし、「稼ぎが有って半人前、務めを果たして半人前、両方やれてやっとな一人前」の格言をもってすれば、それはたった半人前のことにすぎません。「つとめ」とはこの中国メディアが指摘したモラルのDNAをフルに躍動させることなのかもしれません。

今日ここに卒業式を迎えた皆さんは山梨県立大学が自信を持って世に送り出す卒業生です。それは、皆さんが在学期間中、地域の中で「藁しべ」を拾う利他的活動を熱心にして来た実績があるからです。この利他的精神を社会人となる明日からも失わないで頂きたい。

とまれ皆さんの健康と活躍とを心から念じながら私の「贈る言葉」と致します。卒業、おめでとうございます。